

特集：HAART 時代の日和見感染症

HAART 時代の日和見感染症

味 澤 篤

東京都立駒込病院感染症科

Highly active antiretroviral therapy (HAART) により human immunodeficiency virus (HIV) 感染者/acquired immunodeficiency syndrome (AIDS) 患者の予後は改善した。欧米では AIDS 関連日和見感染症の発生頻度が減少してきているのに対し、日本での発生数に変化が見られない。

当院 HIV 感染者における、HAART 導入前後における日和見感染症の動向について、HAART の影響を受けていないと考えられる 1985 年から 1994 年と、HAART 導入後の 1997 年から 2002 年を比較したのが図 1 である。日和見感染症の発症数は HAART 後で増加していた。これを当該時期の HIV 感染者 1 例あたりの発症割合で比較したものが図 2 である。これをみると結核および帯状疱疹ウイルス感染症は増加していた。一方口腔カンジダ症、食道カン

ジダ症、非定型抗酸菌症、クリプトコッカス症、トキソプラズマ症、カリニ肺炎およびサイトメガロウイルス (CMV) 感染症は軽度の変動にとどまった。しかし進行性多巣性白質脳症、クリプトスポリジウム症、サルモネラ菌血症、単純ヘルペス症およびノカルジア症は減少していた。

また日和見感染症自体も、HAART に伴う免疫再構築の関連から、変貌しある意味で複雑化してきている。現時点における日和見感染症の治療、HAART との関係、予防などを明確にまとめ整理しておくことは有用と思われる。

ここではカリニ肺炎、CMV 感染症、カンジダ症、結核、非定型抗酸菌症、クリプトコッカス症、帯状疱疹・単純ヘルペス症、トキソプラズマ症をとりあげ簡潔に概説する。

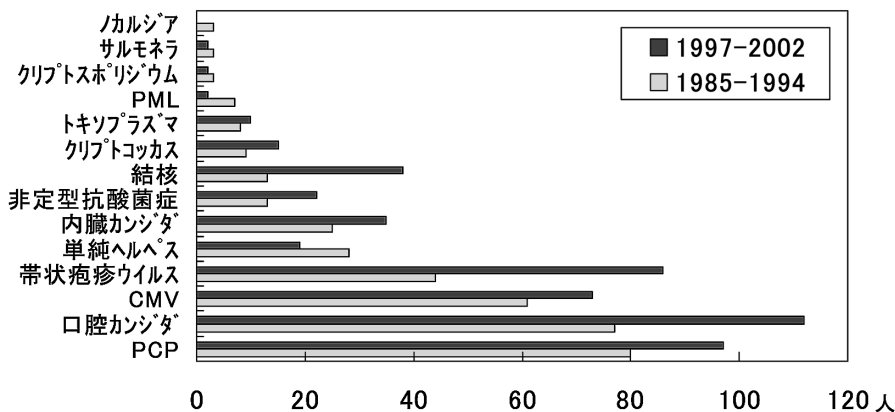


図 1 HAART 導入前後における日和見感染症の動向 —発生数—
 1997-2002; HIV 633 例 AIDS 174 例 1985-1997; HIV 434 例 AIDS 116 例
 PCP; カリニ肺炎 CMV; サイトメガロウイルス感染症 PML; 進行性多巣性白質脳症

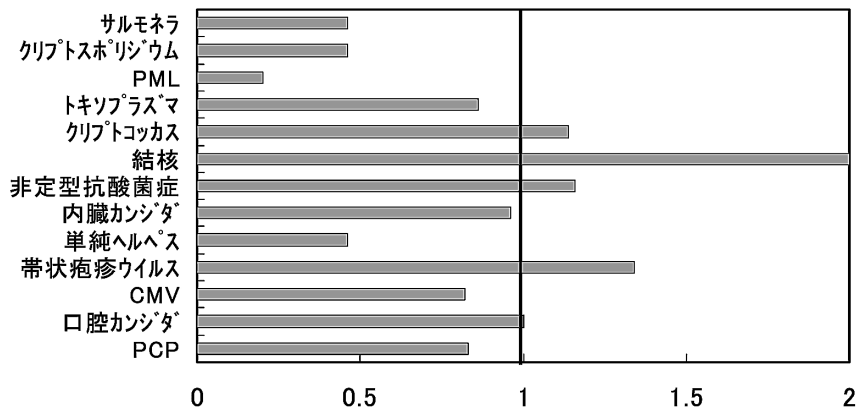


図 2 HAART 導入前後における日和見感染症の動向
 —HIV 感染者数で補正した発生率=1997-2002 年/1985-1994 年—
 1997-2002; HIV 633 例 AIDS 174 例 1985-1997; HIV 434 例 AIDS 116 例
 PCP; カリニ肺炎 CMV; サイトメガロウイルス感染症 PML; 進行性多巣性白質脳症